

## 平成19年度「市川海岸塩浜地区護岸検討委員会」 第2回勉強会の結果概要

1. 日 時 平成19年6月22日(金) 18:00～20:10
2. 場 所 葛南地域整備センター 大会議室
3. 参加者 31名(委員8名、一般3名、報道1名、県市5名、関係者6名、事務局8名)
4. 座 長 遠藤茂勝委員
5. 次 第
  - 1) モニタリング調査結果の検証手法(景観・親水性)
    - アンケート調査の実施内容に係る護岸検討委員会修正案
  - 2) 護岸バリエーションの方向性
    - これまでの検討内容と具体的な構造イメージ
  - 3) その他
    - 第14回護岸検討委員会及び勉強会の予定

### 6. 概 要

#### 1) モニタリング調査結果の検証手法(景観・親水性)

○第13回委員会などでの意見を反映させたアンケート修正案を提示

次回第14回委員会での合意後、アンケートを実施予定

○主な意見

- ・再生案に示した海と陸との連続性のイメージ図を評価する設問もあっていいのではないか。
- ・潮間帯をイメージできるような工夫も必要だと思う。
- ・アンケートのイメージ図と現地の状況に感覚のズレがあるかもしれないので、アンケート対象者に、回答後現地をみて確認してもらうのはどうか。
- ・そもそも海が好きか否か問うてみる必要があるのではないか。
- ・参考として、三番瀬再生会議の出席者や、三番瀬サテライトオフィスへ来た人にアンケートを実施してはどうか。
- ・「護岸のバリエーション(変化)のイメージについて」という設問において、磯場のイメージが強過ぎる。スポット的な干潟の図も入れてほしい。  
三番瀬のイメージにそぐわない。干潟についても問うべきではないか。  
事務局の方で干潟も含めたイメージ(案)をあげて、次回の勉強会で議論し、その中から委員会時に選んでもらってはどうか。
- ・断面図での護岸高さの表示について、護岸の安全上このような値となっている旨、明記しておいた方がよい。(会場の意見)

#### 2) 護岸バリエーションの方向性

○護岸バリエーションに関し、これまでの検討内容と具体的な構造イメージについて説明

○主な意見

- ・のり先に石を使うと本当の意味での親水性にならないのではないか。将来のために頭を切り替えて議論していかなくてはいけない。
- ・何が何でも水辺に降りるといった方向になっている。人が入れる部分と入れない部分を分けるべきである。安全対策を考える必要がある。
- ・全区間を同じような護岸形態にしなくてもよい。
- ・磯場だけでなく、幅広い選択肢をもって検討してほしい。
- ・緊急対策と将来像(海と陸との連続性)は、区別して議論を進めるべきである。
- ・砂を入れると漁場に影響が出るといった考えがあるが、砂はそれほど影響をあたえるものではないと認識している。

3) その他

- ・現地視察会と平成19年度第3回勉強会を7月13日(金)に開催予定。
- ・第14回護岸検討委員会を、7月31日(火)に船橋商工会議所で開催予定。

# 平成19年度「市川海岸塩浜地区護岸検討委員会」 第3回勉強会の結果概要

1. 日 時 平成19年7月13日(金) 18:00～20:10
2. 場 所 葛南地域整備センター 大会議室
3. 参加者 36名(委員8名、一般5名、報道1名、区市6名、関係者9名、事務局7名)
4. 座 長 遠藤茂勝委員
5. 次 第
  - 1) 塩浜地区街づくり計画の状況報告(市川市)
  - 2) モニタリング調査結果の検証手法(景観・親水性アンケート)
  - 3) 工事の実施状況と平成20年度実施計画の考え方
  - 4) 護岸バリエーションの方向性
  - 5) その他

## 6. 概 要

### 1) 塩浜地区街づくり計画の状況報告(市川市)

#### ○市川市より報告

- ・現在、当該地区は工業専用地域となっているが、街づくりにあたっては用途地域の変更はせず、地区計画制度及び再開発等促進区制度を用い、民間の活力を利用して実施することとしている。
- ・平成20年度までに街づくり計画に係る手続きを済ませたい。  
平成21年度から基盤整備着手予定である。
- ・都市計画道路の用地交渉は進めている。
- ・事業者の募集要項は、まだ出来ていない。
- ・容積率は全て200%と考えているが、少し上げる部分もあると思う。

#### ○主な意見

- ・事業者の募集要項に三番瀬再生計画に配慮する旨、明記することを要望する。  
また、募集要項を塩浜護岸検討委員会等で配布願いたい。
- ・自然環境学習の場を広く確保するため、換地も考えてほしい。
- ・容積率を上げて、三番瀬再生計画に係る用地を確保させるのも一つの手段である。

### 2) モニタリング調査結果の検証手法(景観・親水性アンケート)

#### ○修正したアンケート内容について説明

- ・第14回委員会での合意後、アンケートを実施予定

#### ○主な意見

- ・隅角部でのさらし砂の実験はどうなったのか。
- ・のり先で小規模な砂利用をする場合、構造はどうなるのか。
- ・浅場の小規模な砂利用はよいが、大規模なことは別途検討されたい。

- ・侵食されるところに砂をつけてもしょうがない。事前に見極める必要がある。
- ・石積みの際間の維持管理を適切に行うこと。

### 3) 工事の実施状況と平成20年度実施計画の考え方

#### ○工事の実施状況と平成20年度実施計画の考え方について説明

- ・時間の短縮、また議論をしやすいするため、次回委員会時に事務局の方から2案程度の実施計画(素案)を提示することとする。

#### ○主な意見

- ・試験施工の被覆の緑化は、AP+3.0mまで施工して大丈夫か。
- ・被覆の緑化については、適切であるか確認する意味でも AP+3.0mまで施工してもいいと思う。
- ・護岸バリエーションについて、平成19年度に決定し、平成20年度から施工するのは確かに無理だが、検討は早めに行った方がよい。
- ・8月末までの施工といった海上工事の制約を考えると、護岸検討委員会の開催回数を増やし議論を重ねることにより、意見をまとめていった方がいいのではないか。
- ・捨石及び陸側杭先行でよい。

### 4) 護岸バリエーションの方向性

#### ○バリエーションの方向性について説明

### 5) その他

- ・第14回護岸検討委員会を、7月31日(火)に船橋商工会議所で開催予定。